

地域とともにある
学校づくりのために

Community School

CS 通信

これまで発行したCS通信や「コミュニティ・スクール」に関する情報はこちらへ



北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ

北海道 子ども地域支援 検索

《子ども地域支援グループHP》

北海道教育委員会では、地域とともにある学校づくりを推進するため、本年度も「CS通信」を作成します。各管内で開催されるコミュニティ・スクール推進協議会の概要など、コミュニティ・スクールの導入の促進及び取組の充実に関わる情報を紹介しますので、御活用ください。

コミュニティ・スクール推進協議会(根室管内・根室市)7/19(金)

本年度も、「コミュニティ・スクールの効果的・継続的な運用」をねらいとし、7月から11月にかけて、各管内で「コミュニティ・スクール推進協議会」を実施します。

本年度の皮切りとなる協議会が、根室管内で去る7月19日(金)、「北海道北方四島交流センター」を会場に、管内5市町の学校・教育委員会職員、協議会委員等、31名の参加を得て開催されましたので、概要を紹介します。

■ 行政説明・講演 ～学校運営協議会の効果的な運用に向けて～ 北海道CSアドバイザー(伊達市教育委員会教育部参与) 櫻井貴志氏

櫻井アドバイザー御自身がCSを推進している経験等に基づき、CS導入後の課題解決に向けた方策や学校運営協議会を効果的に運用するためのポイント等について紹介いただきました。

- 導入から年数が経過すると、学校運営協議会が単なる活動の報告会になってしまうことや、熟議が十分に深まらず、何かに取り組むこと自体が目的になってしまうことなどの課題が懸念される。
- こうした課題を解決するためには、CSの機能として必須となっている「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」をどのように行うのかを見直す必要がある。
- 「基本方針の承認」の際は、学校が基本方針の背景にある子どもの実情(学力・体力、生活習慣の状況等)や学校の実情(生徒指導、授業時数、先生方の勤務の実情等)などについて具体的に説明し、委員の皆さんに十分に理解していただいた上で承認を得るようにすることが大切である。
- 「基本方針の承認」を得るまでのプロセスにおいて、委員の皆さんに子どもや学校のことを十分に理解いただくことにより、どのような子どもに育ててほしいか、そのために学校をどのように支援できるのかという視点での熟議が深まる。
- 様々な立場の方が委員になっていることを踏まえ、学校は視覚に訴える見やすい資料を提示するなどの工夫も大切である。
- CSは、導入後によりよい仕組みにすることが大切あり、そのためには、学校や地域の実情に応じた工夫を加えていく必要がある。





まとめ～運営協議会を効果的に運用するために

制度を理解する
委員会職員、地域や保護者、特に教職員の理解が不足している。研修会等を通して浸透させていく。

学校(地域)の現状を理解する
学習指導要領改訂や働き方改革等、変化が激しい状況の中、学校は様々なことに対応している。そうした現状をきちんと理解し、そのうえで学校、地域、家庭の役割を再認識する場にしていく。

地域にあった取組にする
地域によってかけられる予算や協力いただける人材は違う。限られた条件の中で出来る最良な方法を時間をかけて模索していく。

櫻井アドバイザーのスライドから

■ 実践発表 ～別海町におけるコミュニティ・スクールの取組～

別海町教育委員会指導参事 根本 渉 氏

根本指導参事からは、CSの導入・推進に関わって大切にしていることや別海町における実践を紹介していただきました。

- 別海町では、平成30年度から順次、学校区ごとにCSを導入し、次年度には、8学校区全てに導入する予定である。
- 導入に際しては、2年間の試行期間を設け、学校の教職員、保護者、地域住民等に理解を十分に図ったうえで、本格実施へという流れを大切にしている。
- CSに関わる組織体制は教育委員会が中心となって整備している。
- 各学校区でCSを導入・推進する際は、子どもや地域の実情を学校・保護者・地域住民で十分に共通理解するとともに、新しい学習指導要領が目指す社会を見通すことを大切にしている。
- 教育課程については、小・中学校9年間を見通したキャリア教育の整備に取り組んでいるが、学校運営協議会で幼児段階の計画があったほうが子どもの育ちに見通しがもてるという意見があったことを踏まえ、幼児段階から12年間を見通すことができる指導計画を整備した。

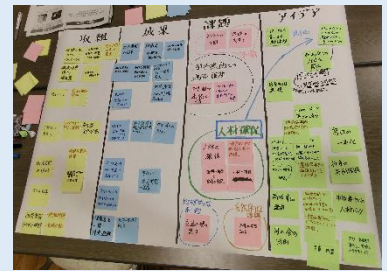


■ 実践交流・熟議 ～CSの効果的・継続的な取組に向けて～

前半は、各市町における実践及び成果と課題を交流し、今後に向けた課題を整理するとともに、後半は、課題解決のための取組について話し合いました。

各グループでは、

- ・人材確保の視点から町内会との結び付きを一層強めることが考えられる。
 - ・CSについてより一層の周知を図るために、SNSやHPを活用することが考えられる。
 - ・子どもの成長という視点から高校との連携を充実する必要がある。
 - ・より多くの方が負担なく参加できるように、会議の時間設定を工夫する必要がある。
- といった意見が出されるなど、活発な熟議が行われました。



■ 振り返り

協議会の最後に、参加者全員で、説明・講話や実践発表、熟議を通じて得た成果や感じた課題を整理し、交流しました。

「本日の推進協議会に参加して、他市町とのネットワークができた。」 「人材リストの作成などはすぐにできそうな取組である。実践につなげたい。」 「次の世代の委員の育成も意識した取組が必要である。」 などの意見や感想が聞かれました。

今後の管内コミュニティ・スクール推進協議会の予定

管内	開催市町	期日	管内	開催市町	期日	管内	開催市町	期日
空知	岩見沢市	11月20日(水)	渡島	函館市	8月30日(金)	宗谷	稚内市	9月5日(木)
石狩	札幌市	9月9日(月)	檜山	江差町	9月18日(水)	林-ㇿ	網走市	8月26日(月)
後志	倶知安町	8月27日(火)	上川	旭川市	10月8日(火)	十勝	幕別町	8月29日(木)
胆振	室蘭市	10月2日(水)	留萌	留萌市	9月13日(金)	釧路	釧路市	9月11日(水)
日高	浦河町	9月4日(水)						

【担当から】根室管内のCS推進協議会では、参加者が自分の地域のCSをよりよい仕組みにするためにという思いで、熱心に講話に耳を傾け、熟議に参加している姿が印象的でした。今年度も「CS通信」を通して、CSの様々な情報をお伝えします。(担当：子ども地域支援G 主査 吉村公孝)